

キャリア教育授業
世の中理解



イメージトレーニング 「就職、結婚… 人生のできごととお金」

訓練される能力 (効果) 内容○ 教授法△	自己理解	コミュニケーション	情報収集・探索	職業(学問)理解	役割把握・認識	計画実行	選択	課題解決
					○		○	

学習のねらい	① 長期的な視野で選択する練習 一生涯という長期的な視野から「選択」と「結果」を考える。ゲームを通して「お金に関わる選択」を体験し、「現在の選択」が将来に影響することを実感してもらう。	② 進路選択のもう一つの視点を学ぶ 進路設計、将来設計には必ずお金が関わってくる。ゲームを通じて、大人になったら自分(の責任)でお金の管理をする必要性があることを実感し、将来設計を考えるときの経済的な視点を学ぶ。
--------	--	--

授業時間	50分	授業前の準備ポイント	授業内容とゲームの進め方を理解しておく
------	-----	------------	---------------------

当日 必要なもの	講師 ●配付資料 □「社会保険制度 知って おかないと損するよ!」 □「選択ゲーム」ワークシート ●先生用資料 □PPT画面 □イベントカード □スクリーン1台 □電卓 □プロジェクター1台 □パソコン1台	生徒 □筆記用具 □電卓
-------------	---	-------------------------------

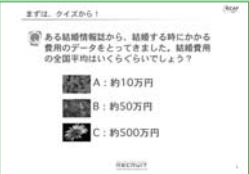
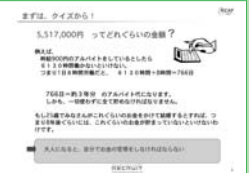
T7-001

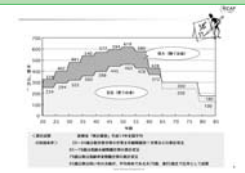
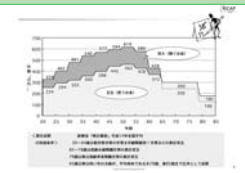
※本テキストの著作権は、株式会社リアセックに帰属していますので、
本テキストの著作権が他者に帰属するような表示及び言及をしてはなりません。
※高校生向けのキャリアや進路に関する授業・セミナー以外の目的で本テキストを使用することはできません。

株式会社リアセック R-CAP事務局 <http://www.r-cap.net/teens/>

授業展開のための実践ヒント

ポイント	◎授業の内容が自分自身の人生設計に関わることを体感し、生徒が自然とお金のテーマに関心を持つことを狙いとする
------	---

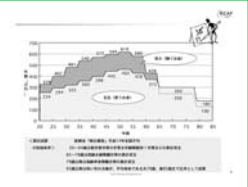
時間	展開	内容・進め方	留意点
10分	【導入】 授業の目的を説明  PPT画面／表紙 簡単なお金に関するクイズを行い、授業のテーマに対する関心を高める  PPT画面／1 クイズの答えを発表  PPT画面／2 お金の重さを実感させる  PPT画面／3	「今日はお金に関する授業をします。君たちはまだ衣食住を親に頼っているけど、近い将来、自分で稼ぎ、生活していかなければなりません。そのときに備えて、お金の基礎知識を学びます」と話し、スライドに注目させる。 「まずは、クイズです」 「結婚するときには平均でいくぐらいお金がかかると思いますか」 「A. 約10万円、B. 約50万円、C.約500万円、3つの答えから選んでください。直感で答えてみてください」 (3つの答えを読み上げていき、生徒に手を挙げてもらう。) 「答えは、Cの約500万円です」 「500万円というのは、全国平均の数字です。なので、もっと沢山かける人、反対に少なくすませる人ももちろんいます。例えば、芸能人やスポーツ選手はもっとかけていますよね。反対に『地味婚』といって、ほとんどお金をかけないで簡単に済ませる人もいます」 「500万円という金額は、多いと思いますか？ 少ないと思いますか？」 「結婚する時は、挙式・披露宴の費用だけでなく、2人での生活用に住居を借りたり、引越しをしたり、家具を揃えたりしなければならないのでその費用もかかります」 「では、実際にかかる費用、551万7000円は、どれくらい働けばたまるものなのでしょうか？」 「例えば、時給900円のアルバイトをしたとすると、 5,517,000円÷900円＝6130時間 6130時間分の労働に相当します。 1日8時間働いたとすると、 6130時間÷8時間＝766日 766日分の労働になるわけですね。 土日を休み、休日も休みとすると、年間で働くのは252日。その日数を基に年数を計算すると、 766日÷252日＝3.04年 このお金を稼ぐためには、約3年かかるのです」 「これは丸3年働いて、かつその間のアルバイト代を全て貯金して、一切使わないで貯めた場合の金額です」 「もちろん、実際に結婚する時には、簡単に2人だけで式を済ませて終わるかもしれませんが。また、2人合わせて	

時間	展開	内容・進め方	留意点
	クイズのまとめ  PPT画面／4 図の読み方を解説  PPT画面／5	500万円あれば良いので、実際にはお互いにこの半分の金額を用意すればよいわけです。親が援助してくれたら、さらに少ない金額でいいですね」 「しかし、もしみなさんが25歳で、平均的な結婚式を挙げて、平均的な生活をしようと思うなら、500万円くらいの貯蓄が必要になるのは事実です。みなさんは今17、18歳なので、約8年後ですね。結婚は一例ですが、将来を見据えて、事前に貯蓄をしていくなどの準備が必要になります」 「大人になるということは、自分がやりたいことができるようお金を計画的に準備する必要があるということでもあります。また、将来のことを早めに考えておくことも必要となります」 「そこで、今日は大人になった時に知っておくと役立つ、お金の基礎知識を学びます」	
5分	【展開1】 お金の基礎知識講座  PPT画面／4 図の読み方を解説  PPT画面／5	「次にこのグラフは何を表していると思いますか？」 「総務省による家計調査のグラフです。4500世帯の調査をもとに、一生涯の収支を計算したものです」 「収入と支出の平均をグラフにしています。平均値を出しているの、あくまで標準的な数字です。収入と支出が全くこの通りのグラフになる世帯はもちろんありません」 「64歳までは、勤労世帯の数字を示しています」 「65歳以降は、働いていない世帯の数字をあらわしています（仕事の定年が65歳のため）」 「濃い緑色のグラフは、支出を表しています。65歳以降は収入が支出より少なくなるので、支出グラフの裏側に隠れてしまいます」 「調査データに基づけば一生涯の収入は2億7000万円、支出は2億2000万円です。これは平均の数字です。もっと稼ぐ人ももっと使う人もいます。例えば、ヤンキースの松井秀樹の2003年度の年俸は7億2000万円、マリナーズのイチローは5億3000万円です」 「このグラフは、あくまでも平均を出しています。例えばフリーターとして一生アルバイトをした場合は年収がこのグラフのように伸びていきません。20歳から65歳までずっと150～200万円ぐらいのままで一直線のグラフになります」 「人によって一生涯の収支は変わってきますが、要は、自分の収入に応じて支出を調整していかなければならないわけですね」	※ 豆知識 このグラフでは65歳での生涯収支の差は5000万円となっています。 通常、預貯金や株などの金融資産で残るのは3000万円ぐらいです。後はマイホーム資産などになります。

時間	展開	内容・進め方	留意点
	クイズのまとめ	「ところが『お金』というのは何かと、あやふやにしていまいがちです。『考えるのがめんどろ』『何とかなるかも』などと思って、その場さえお金があれば大丈夫だとしてしまいがちです。しかし、実は、このグラフのように支出と収入のバランスが上手いかなくなくなるときもあります」 「それは、どんな時でしょうか。そんな時、どんなことにお金はかかるものでしょうか」	
10分	【展開2】人生とお金の関連性について考える  PPT画面／5 人生は予期せぬ出来事が起こる  PPT画面／5	「この図では、人生を5つの時期に分けて表しています。みなさんの場合は、青年期の部分に当てはまります」 「各段階には、その頃に起こりうる生活上の主なイベント（出来事）も書かれています」 （実際の具体例をあげながら説明する） 「これらは、あくまで平均的なイベントなので、人によって時期がずれたり、体験しないイベントがあると思います」 「人の生涯の主な出来事、流れがどんなものなのかが大体わかったかと思いますが、この中でいっぺんにまとめて沢山のお金を払わないといけないものがあります。例えば、マイホームや子供の進学などです」 「子供一人を教育するには、教育費がどれぐらいかかるか知っていますか？ <u>幼稚園から高校まで全て公立の場合は、約500万円</u> <u>幼稚園から高校まで全て私立の場合は、約1800万円</u> かかると言われています。結構かかるものなんですね」 「また、人生には予期せぬ出来事が色々と起こりえます。この予期せぬ出来事というのは、喜ばしいもの（出産、教育）もあれば、喜ばしくないもの（事故・盗難）もありますが、共通して言えることは、全てお金がかかるということです」 「例えば、骨折して約1ヶ月間入院することになったとします。そうすると、医療費は全部で約90万円もかかります。しかし、健康保険制度によって3割程度負担をすれば良いのです。それでも、実際に支払う金額は27万円、かなりの負担になります」 「このように、健康保険は全てをカバーしてくれませんが、この他に貯蓄をしたり、生命保険などに加入する必要があります」 「このような非常事態、万が一の時のために、社会保険制度というのがあります。みんなで少しずつ保険料を出しあい、病気やけが、死亡などの場合に、お互いに救済しようとするものです」 ●『社会保険制度 知っておかないと損するよ！』を配付。 「これらの保険は、国（厚生労働省）で管理監督する公的	※ 豆知識 【幼稚園から高校までの教育費】 ■年間教育費 ○幼稚園（2年） 公立／23万8千円 私立／58万3千円 ○小学校（6年） 公立／29万円 私立／152万3千円 ○中学校（3年） 公立／44万5千円 私立／141万1千円 ○高等学校（3年） 公立／50万9千円 私立／136万5千円 →幼稚園から高校まで、全て公立の場合の教育費合計／507万8千 →幼稚園から高校まで、全て私立の場合の教育費合計／1863万3千円 <資料出所> 公立データ：文部科学省 平成12年度「子供の学習費調査」（平成14年1月発表） 私立データ：東京都教育庁 平成12年度「保護者が負担する教育調査費」（平成13年4月発表） 「年間教育費」は、学校教育費以外に学習塾・家庭教師・習字などの学校外教育費含む ※ 医療保険制度の詳細については、健康保険組合連合会のホームページを参照してください。 http:// www.kenporen.com/

時間	展開	内容・進め方	留意点
	（資料配付）  社会保険制度 知っておかないと損するよ！	保険もあれば、民間の会社を取り扱っている私的保険もあります。原則として、日本の国民であれば公的保険には加入することになっています（強制加入）。 みなさんに特に覚えて欲しい公的保険の種類は、健康保険・厚生年金保険、労災保険、雇用保険です。これ以外にもいくつかありますが、特にこの4つがみなさんに必ず関係してくるはずですので、覚えておいてください。詳しい内容は、これから配付する資料に載っています。必ず読んでおいてください。これらの保険は、加入しているだけではいざという時のお金はもらえません。きちんと手続きをする必要があります。ですから、知らなかったためにもらえるはずの援助がもらえなかったとならないように、よく読んでおいてください」	※時間がある場合は、資料の内容と一緒に読んでいく。
20分	【展開3】家計計算のゲーム  PPT画面／6 ゲーム開始  選択ゲーム	●「選択ゲーム」ワークシートを配付 ● 電卓の準備 ● 講師は手許にイベントカードを持っておく 「お金の管理を疑似体験できるゲームです」 「このゲームでみなさんにしてもらうことは、自分の家計計算をすることです。できる限り赤字にならないで、バランスよく収支を管理することがポイントです」 「このゲームでは20歳から40歳までの家計を管理します。みなさんは、20歳、30歳、40歳の区切りで家計を管理します。そして30歳と40歳のときに予期せぬ出来事が起こります。それは先生の手許にあるトランプに書かれています。トランプの中から1枚だけカードを引きます。それは突然の大儲けかもしれないし、ケガで支出をするかもしれません。とにかく、内容によっては、みなさんの収支が大きく変わることもあります。とりあえず、始めてみましょう」 「ゲームのスタートの条件として、20歳で月収17万円のお仕事を始めたとします。また、全員が社会保険に加入していることとします」 「STEP1」 全員で20歳の時の収支の合計を出す。「社会保険料」「税金」は生徒に手書きで記入させる。 「社会保険料は月に3万円程度かかりますので、3万円と記入してください」 「税金は月に1万円程度かかりますので、1万円と記入してください」 「STEP2」 「10年間の貯蓄額を計算しよう」 それぞれに計算をさせ、最後に先生から答えを伝える：360万円。	

時間	展開	内容・進め方	留意点
		「STEP3」 30歳 ライフイベントを選択する（貯蓄を使ってイベントを選択する。 注）全員が360万円しかないため、この時点では結婚とマイカー購入のどちらかしか選べない（ただし、結婚とローンによるマイカーの購入は可能）。 ライフイベントの支出合計を出す。 「30歳での貯蓄額」「イベントの支出合計」を出す。 「STEP4」 「イベントカード」のSTEP4のカードを1枚ひく。 カード上に書かれている出来事を読み上げ、その指示に従って「出来事1」「出来事2」に記入する。 「出来事1」「出来事2」の数字がマイナスの場合は、一を付けて数字を記入する。 「①と②の合計」を出す。 「STEP5」 「40歳までの貯蓄を計算しよう！」 生活費を出す：結婚した人、結婚しなかった人でわかれる 住宅費を出す：結婚した人の方が広い家のため高くなる マイカーのかかる費用を出す： ・車の維持費→マイカー購入者全員にかかる ・車の保険→選択制。入らなくてもよいが、 ・予期せぬ出来事として事故が起こるかもしれない。 ・100万円のローンを組んだ人→ローンを組んだ人のみ対象 社会保険：全員対象。税金：全員対象 「支出の合計」を出す。「月収（30万円）－支出の合計」を出す。 40歳での貯金額を出す。 「STEP6」 40歳 再びライフイベントを選択する。 自分の貯蓄額に応じて選択。支出合計を出す。 「40歳での貯蓄額」－「イベントの支出合計」を出す。 「STEP7」 「イベントカード」のSTEP7のカードから1枚をひく。 4つの出来事を先生が読み上げる。各出来事に対して生徒は収支を記入。 最終的な出来事による収支を合計する。	※ マイカーローンで購入する場合は、保険加入項目にもチェックする

時間	展開	内容・進め方	留意点
	ゲームのまとめ （再び見せる） 	「あなたの現在の生活状況」を記入する。 記入後、隣同士で見せあう。 「貯蓄高が100万以上の人は？」「未満の人は？」「ローンがある人は？」「無い人は？」（手を挙げさせる） 「今、ゲームをやりましたが、人によって全然違う『生活状況』にたどり着きました。スタートは、全員同じだったのに、みなさんの選択の結果は異なるものになりました。なぜかという、みなさんがそれぞれ異なる選択をしたからです」 「どの結果がよいかは、人それぞれの価値観（大事に思っていること）や感じ方によって異なるので、どれが正解かは特にありません。しかし、今のゲームでライフイベントを選択するときに、人によってはどのように決めれば良いのがわからず、友だちの真似をしたり、相談したり、適当に選んだりしたかと思います。 お金の管理をするときには結局、何を『選ぶ』かが難しいわけですね。なぜかという、どんな結果になるかが分からないからです。ゲームでは、少し極端な予期せぬ出来事が起こりましたが、実際の生活でも、いつどのような予期せぬ出来事が生じるかがわかりません。ですから、事前に備えられるものに対しては、大人は備えておくようにしているんですね」 「みなさんがライフイベントを選んだときにはどんなことを考えましたか？」 「お金を管理するということは、このようにお金を何に割り当てるか、どのように赤字にならずにバランスよく使っていくかということですね」 「ものすごくきっちり考えなくてもよいのですが、『今さえ良ければいい』ではなく、『少し先のことを考えながら』、また、利用できる国の制度を把握しておきながら必要なときには使えるようにしておくことが大切です」 「お金は目的ではなく、夢ややりたいことを実現するための手段であることを忘れずにいてください」	
5分	【まとめ】 ポイントの 整理・振り返り 	■授業のポイント 「お金は、一生関わることになるテーマ。『今』だけでなく、『将来』への影響を考えながら管理していくのがポイントです。また、社会保険制度のように、事前に知識をきちんと持つておくことによって、より良いお金の管理が出来るものもありますので、普段から積極的に世の中の仕組みやニュースに目を向けておいてください。」 ■振り返り ① 数人の生徒に、授業の感想や考えさせられたことについて意見発表してもらう。 ② 振り返り用紙を配布し、生徒一人一人が個別に記入し、個人の中で授業内容を整理し、振り返るようにさせる。	